

01

国際理解教材
「集まれ！地球の教室」が完成

JICAは2007年4月より1年間、朝日小学生新聞で全51回にわたる連載コラム「集まれ！地球の教室」を掲載してきました。このコラムは、世界の国々や教育環境、保健医療など開発途上国が抱える多くの課題について、クイズやワークシートを使って分かりやすく説明したもので、教育関係者などから大きな反響があり、連載終了後も問い合わせが相次いでいます。

そこで今回、全コラムをまとめた冊子を発行することになりました。現地の情報やデータも豊富に取りそろえられ、小中学校の国際理解教育(開発教育)の副読本として活用できるものになっています。

また、学校に行けない途上国の子どもたちの現状や国際協力についてイラストで分かりやすく解説したパンフレット「学校に行きたい!」や、マンガで途上国のさまざまな問題を学ぶことのできる「壁新聞」など、ほかにもたくさん国際理解教育の教材を無料で配布・貸し出ししています。ぜひ一読・活用ください。

問：JICA地球ひろば市民参加協力促進課

TEL：03-3400-7254



世界の課題、国際協力について分かりやすく説明しています

02

青年海外協力隊
16年ぶりにスーダンへ派遣再開

1993年以降見合わせていたスーダンへの青年海外協力隊の派遣が16年ぶりに再開され、3月末、短期隊員の岡田晃範(あきののり)さんが現地に向けて出発しました。

内戦悪化の影響を受け、JICAは93年にスーダン事務所を閉鎖、協力隊の派遣も中止しました。その後2005年に南北包括和平合意が結ばれたことから、07年に駐在員事務所を開設。以降、「平和の定着」を目指し、保健・衛生、水、教育、職業訓練、

インフラなどを重点分野に支援を行っています。

岡田さんには、今年1月まで隊員としてヨルダンで活動していた経験があります。スーダンへの派遣期間は6カ月。首都ハルツームの職業訓練センターで、溶接技術の指導を行うほか、今後のボランティア拡充を視野に入れ、現地の技術レベルなども調査する予定です。

03

コソボで奏でられた平和のハーモニー

4月13日、コソボ共和国の首都プリシュティナで、JICA研修参加者の親睦(しんぼく)とJICA事業への支援を目的に設立された「JICAコソボ帰国研修員同窓会」の総会が開かれました。

1990年代のユーゴスラビア紛争に巻き込まれ、北大西洋条約機構(NATO)軍によるセルビア空爆や国連統治を経て、2008年2月に独立を果たしたコソボ。JICAは02年より、コソボへの人材育成支援として、環境やエネルギーなどさまざまな分野で、日本での研修を実施しています。

総会後には、平和の定着への願いを込めてコソボ・フィルハーモニー交響楽団の定期

演奏会が行われ、同楽団の常任指揮者・柳澤寿男さんが、総会の参加者全員を招待しました。



定期演奏会で指揮する柳澤さん

演奏会には、団員不足の同楽団を助けるため、隣国マケドニアから約20人の演奏者がエキストラとして参加。その際には、01年に日本の無償資金協力によってマケドニアに供与された楽器が使われました。